

「なすかしの森ボランティア養成研修」報告

実施日：令和4年6月11日（土）～12日（日）1泊2日

場所：国立那須甲子青少年自然の家

【目的・趣旨／概要】

国立青少年教育機構が提供する法人ボランティア養成カリキュラムに基づいて実施し、青少年教育施設で活動できるボランティアを育成する。

【連携先】（団体名・講師名・連携内容等）

・講師等：

初澤 敏生氏（福島大学教授）

真山 高士氏（NPO 法人那須高原自然学校理事長）

加藤 正幸氏（チャウス自然体験学校代表）

谷崎 誠氏（国立那須甲子青少年自然の家主幹）



【募集対象／実績】

《募集対象》大学生 30名程度 募集

《実績》38名（大学生27名、法人ボランティア5名、その他指導者6名）

【プログラム内容】

①6/11（土）エコルーム1 9:30～11:00

「青少年教育の現状と課題（青少年教育）」

講師：谷崎 誠氏（国立那須甲子青少年自然の家主幹）

始めにアイスブレイクを行い、講師と参加者、そして参加者同士がリラックスできる雰囲気を作った。緊張がほぐれた後、参加者がこれまで受けてきた教育を振り返り、自身の満足度から青少年教育の課題を考えさせた。



6/11（土）ピロティ 11:30～14:30

「野外炊事をしよう（ボランティア活動の技術）」

講師：後藤 基寛氏（国立那須甲子青少年自然の家企画指導専門職）

野外炊事を行う上で、全体の流れと各活動場面での教育的意義を参加者と共有した。その後、野外炊事をする上での安全管理や炊事のポイントを簡単に説明した。野外炊事をする上での細かい技術は、グループごとにスマートフォン等を利用して調べを促した。活動後は、グループごとにポストイットに反省点を記入し、代表者が発表して全体共有を行った。



③6/11（土）エコルーム1 15:00～16:30

「ボランティアって何のためにするの？（ボランティア活動の意義）」

講師：真山 高士氏（NPO 法人那須高原自然学校理事長）

始めに真山氏の自己紹介を交えてアイスブレイクを行った。次に、小グループに分かれて、なぜ養成研修に参加したのかを参加者同士で共有した。その後「ボランティアの意義」や「ボランティアを行うことにより得られる人間的な成長」などを真山氏の経験を交えて講話した。



④ 6/11 (土) エコルーム1 16:40～17:40

「青少年教育施設の現状と運営」

講師：谷崎 誠氏（国立那須甲子青少年自然の家主幹）

参加者同士のコミュニケーションが豊富にとれる Zoom という活動を行った。その後、谷崎氏から青少年に対する社会教育施設の存在意義や今後の展望を講話した。



⑤ 6/11 (土) プレイホール 18:30～20:30

「キャンプファイヤーをしよう（青少年教育施設におけるボランティア活動・ボランティア活動の技術）」

講師：後藤 基寛氏（国立那須甲子青少年自然の家企画指導専門職）

始めにキャンプファイヤーを行う上で、全体の流れと各活動場面での教育的意義を参加者と共有した。次に、グループごとに儀式担当、ダンス担当、レクリエーション担当、振り返り担当、ファイヤーキーパー担当に分けて活動内容を考え、実施した。



⑥ 6/12 (日) エコルーム2 9:00～12:00

「安心・安全のために（安全管理）」

講師：加藤 正幸氏（チャウス自然体験学校代表）

リスクマネジメント講習では、リスクマネジメントの考え方、基礎知識など、多くの事例を基に講義を行った。危険予知トレーニングでは、イラストを用いてグループごとに考え、発表・共有を行った。CPRでは、デモンストレーションの後、参加者も実際に体験した。まとめでは、ボランティアを行う上での心構えを参加者と共有した。



【成果】（目的に対する評価、参加者のコメント等）

- ・福島大学を中心に大学生が参加し、27名の応募者（昨年度と同程度）があった。
- ・地域で活躍している実践者を講師として招き、ボランティアとして必要な知識や技能を提供した。
- ・各講座で所属の異なる参加者同士が意見交換できる場を積極的に設けた。参加者からは、つながりを作る機会となったとして、好評であった。

《参加者の声》

「先生方や法人ボランティアのみなさんが、優しくサポートしてくれたので、安心して参加していました。」「ボランティアの内容や、やっていることについて詳しく知ることができた。」「野外炊事など、演習を多くできたのがためになった。」「レクリエーションや集団活動のおかげで楽しく取り組めた。」「無意識に自己開示できる雰囲気できていてよかった。」「色々な大学の人と一緒に学べたことが自分にとってとても刺激的でした。」等

【課題と方策】

- ・法人ボランティアからは、より運営面にかかわれるように事前に内容などを共有してほしいという要望があった。来年度は計画的に法人ボランティアと連携できるようにしていく。
- ・法人ボランティアと参加者が別の部屋だったので、次回からは同じ部屋にすることにより、交流を深め、法人ボランティアのことを知ってもらう機会としたい。



国立那須甲子青少年自然の家【作成】企画指導専門職：後藤 基寛